

特定非営利活動法人 日本ハンザキ研究所 会誌



あんこう

第12号

平成 26 年 3 月発行

「あんこう」はオオサンショウウオの当地の呼び名です

巻 頭 言

随想

農家民宿まるつね 開業2年を経て (2) _____ 1
理 事 黒田 哲郎

イラストスケッチ

サン吉よんこま (その24) _____ 2
会 員 田口 愛子

話題など

狩猟の魅力まるわかりフォーラム&フィールドセミナーに参加して _____ 3
会 員 山崎 寛子

イベント報告

25年度前半のイベント _____ 4
事務局長 奥藤 修・他

編集後記 (編集長 黒田 哲郎)

巻 頭 言

年度ごとに9月と3月の2回刊行を続けてきた会員の皆様方の雑誌“あんこう”ですが、遅れを取り戻すために臨時編集長の黒田哲郎理事がページ数を減らしてでも追いつこうと11号(平成25年9月号)に続いて12号(平成26年3月号)を平成27年2月中に刊行できることになりました。あとは平成26年9月号と平成27年3月号をこの3月に発行できれば一応追いつくことになります。ページ数が減って書き手の数も少なく物足りなくお思いの方もあるでしょうが、皆様方の投稿もぜひお願いいたします。気軽に、何でもいいので書いて頂ければいいと思います。特に、NPOの活動に対するアドバイズなどがあればぜひお願いいたします。少人数でやっていくとマンネリ化しかねません。

前号に続いて“まるつね”その2が掲載されています。そうなんです、本当に国外からのお客さんが多く、必ずハンザキ研に寄っていきます。私は黒田理事以下の英語ですが、まあ何とか理解していただいているかと思っています。何しろ話よりも実物が目の前にあるのですから、実物には勝てませんね。

山崎さんの狩猟フォーラムの話、皆さんはどのように考えられますか？①ハンティングは本能を刺激します。私もわくわくするシーンで、もっぱらパチンコでカラスやアオサギなどの追い払いをしています。②ハンターの高齢化と人数の減少。こればかりは致し方が無いことですが、言い訳ばかりしていてもらちがあきません。環境調査会社ではアライグマやヌートリアの駆除の仕事を受託されています。自治体はシカもイノシシも委託すればいいのではないのでしょうか。③では気候変動よりも、田畑が金網で囲われた結果、在来フロラが壊滅状況になっているのだと思います。最近では女性のハンターがマスコミに取り上げられていますが、大いに人口の半数以上を占めている女の人たちの活躍を期待したいものです。

昨年の10月には私の大学の同窓会を黒川で実施しました。翌月の11月には1学年下の後輩が17名もやって来ての同窓会でした。生き物の学問を志してきた同窓生ですから何にもないがハンザキだけはたくさんいるのでやってこないかと誘った結果だったのです。帰り際の皆さんの笑顔を見たら満足していただけたかと思いました。それでも私としては心残りだったのが2組とも天候に恵まれず雨とみぞれの夜だったために、野生のハンザキを見てもらえなかったことでした。まあ自然相手ではこんなこともあるので、機会があれば再度挑戦して下さいと思います。

平成27年2月28日

NPO法人 日本ハンザキ研究所

理事長 栃本 武良

随想

農家民宿まるつね 開業 2 年を経て(2)

理事 黒田哲郎

ここから自慢話である。日本で最も利用されているインターネットの検索サイト「YAHOO! JAPAN」や「Google 日本」で『農家民宿』を検索すると、都道府県の担当部署などを除き、宿としてはまるつねがほぼ一番上に出てくるのである。おそらく日本全国に数百はある農家民宿の中で、開業わずか 2 年の我々が常にトップに出てくるというのは驚きである。稼働率も決して高いわけではなく、夏休みの一ヶ月ほどしか賑わうことのない無名の農家民宿であるが、一年以上ずっと検索上位にいるということは、積極的ではないにせよ、多くの人々がどんなところだろうと思ってクリックしているに違いないと思っている。自慢話といってもこの結果は全て他力本願であるが、嬉しいことに変わりはない。

まるつねからだとも 40 分くらいと微妙な距離にある、現在売り出し中の竹田城跡であるが、周辺に宿泊施設がないため、市外の宿泊施設に泊まらざるを得ないという残念な話をよく耳にする。雲海シーズンの平日は、まるつねは空いていることも多いが、朝来市内の宿泊施設の車は申請すれば、竹田城跡への道を通行することができるそうなので、優位性を生かしてお客様の送迎をするなど、特色のあるサービスを打ち出すこともできるのではないかと考えている。

ただ、まるつねには大きな弱点がある。昔ながらの田の字型の間取りに土間がついたオーソドックスなスタイルの古民家であるが、その雰囲気を壊さないため、厨房施設は設けなかった(台所を厨房として囲ってしまうと雰囲気が大きく変わる)。それにより、この施設では飲食店の許可を受けることが出来なかった。農家民宿は特例として、料理体験(一緒に調理すること。例:ソバ打ちなど)による食

事の提供は認められているが、毎食そのようなことをするわけにもゆかず、基本的には自炊の宿として営業している。しかし福井県など、農家民宿の取り組みに積極的な県では宿泊客が 10 名程度以下の宿ならば、厨房施設を設置しなくても、そのまま台所を使って料理を提供しても構わないという独自ルールを設けている。これは農家の実態を理解した上で積極的に推進する姿勢があるからこそその結果だと思う。兵庫県は農家民宿の開設に積極的ではないとみえ、人口 550 万人以上も抱える大きな県にもかかわらず、農家民宿は 10 軒ほどしかないようだ。ある意味日本一有名な(?) 農家民宿がある県として、福井県のような独自ルールを設けてくれれば、もっと農家民宿が増えるだろうと思うのだが。

それが無理ならせめて外国人客に対してだけでも特例を認めてもらえるとありがたい。まるつねに来た外国人は、ツアーでは絶対来ることのないごく普通の風景や観光客向けではない田舎料理を大変喜んでくれる。お世辞なのかもしれないが、東京や大阪よりもここがよかったよ、と言ってくれた人もいた。訪日する観光客数は近年増加し、平成 26 年は 1,300 万人以上と過去最高を記録した。まるつねはこれからも外国人のお客さんを積極的に受け入れたいと思う。しかし、その為にはまず英語の勉強をしなければならない。学生時代、もっとしっかりやっておけばよかったと後悔している次第である。

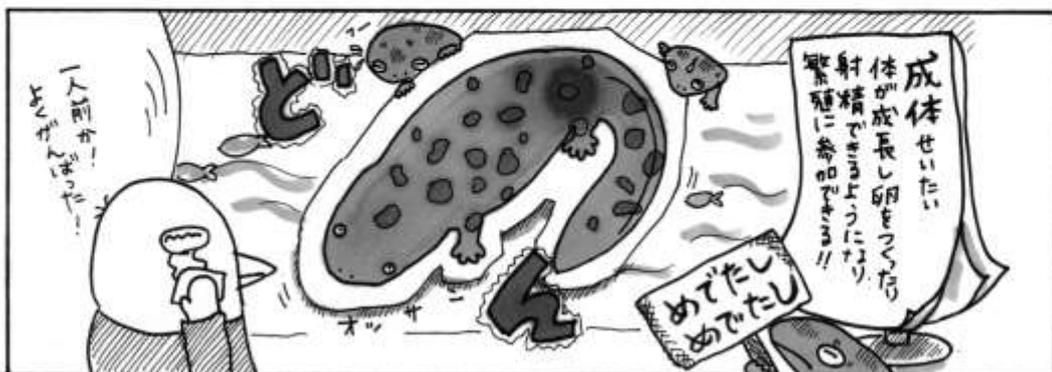
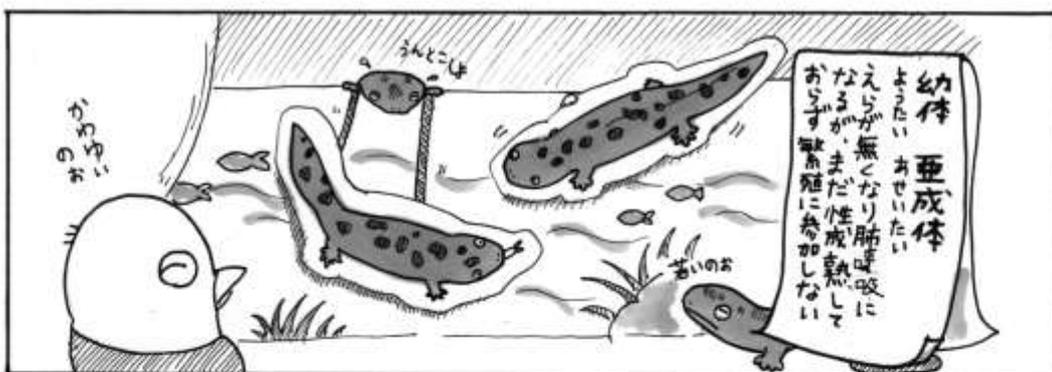
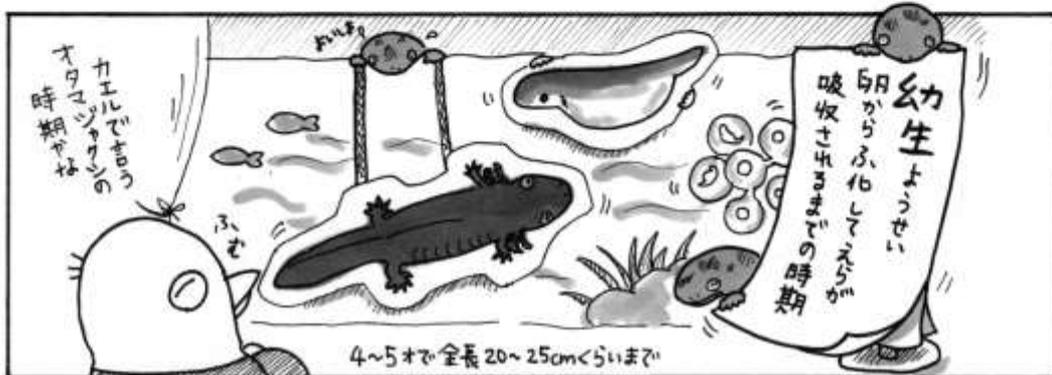


かまど炊きご飯体験が一番人気のメニュー

イラストスケッチ



その24 両生類の呼び名



サン吉: オオサンショウウオ
川にすむ王さまである



トリ子: トリ聖宇宙人
地球を征服するべく
生命をかきとっている

話題など

狩猟の魅力まるわかりフォーラム&フィールドセミナーに参加して

会員 山崎寛子

皆さんはこのロゴマークをどこかでご覧になったことはありませんか？



「狩猟の魅力まるわかりフォーラム」とは、環境省が都道府県や狩猟関係者ととも全国で開催しているフォーラムで、平成 24 年から今までに全国 20 箇所以上で実施されて来ました。このフォーラムの目的は、①「自然」や「生き物の命」に正面から向き合う狩猟の魅力と、狩猟が持つ社会的役割を知ってもらうこと、②人と野生鳥獣との適切な関係の構築や豊かな自然の生態系の維持に向けた、将来の「鳥獣保護管理の担い手」となるきっかけを提供すること、つまり、ものすごくざっくり言うと「皆さん、ハンターになってみませんか？」ということです。

近年シカやイノシシなどが増えて、田畑や山林に様々な被害が出ている、というようなニュースを皆さんもお聞きになっていると思います。ハンザキ研の周辺でも、一步山の中に入るとシカの糞がたくさん落ちていますし、夜間に車で走っていると次から次にシカが出てきます。

シカなどが増えた原因としては、①人間が肉や皮を利用する機会が減り、捕獲数が減った、②ハンターの高齢化・減少により、捕獲数

が減った、③積雪が少なくなり、シカなどが生息できる範囲が増え、冬を乗り越えられるようになった、④放棄された耕作地が増え、そこが餌の供給源となっている、などが挙げられています。

このうち②については、1970 年代には 50 万人いたハンターが 2010 年には 19 万人にまで減り、さらにその 6 割以上が 60 歳以上、というのが現状です。そこで環境省が、高齢化が進む狩猟の担い手を増やそうと開催しているのが「狩猟の魅力まるわかりフォーラム」、というわけです。

私の住む鳥取県ではこのフォーラムが昨年の 11/1 に開催され、ハンターによる座談会やわなの実演、模擬銃の展示、ジビエ料理の試食など、なかなか興味深い内容でした。また、フォーラム参加者のうち希望者には、さらにもう一步踏み込んだ「フィールドセミナー」が用意されていて、1/31・2/1 の 2 日間、私もこのセミナーにも参加させていただきました。セミナーでは、実際に猟をしておられるハンターさんから普段聞けないようなお話を伺ったり、山に入っのわなの説明、巻き狩りの模擬体験など、フォーラムよりもさらに具体的で貴重な経験をさせていただきました。

狩猟というと、怖いとか危ないというイメージをもたれる方も多いと思います。また、それは生き物の命を直接奪う行為ですから、残酷だと思われる方もいらっしゃるでしょう。また、シカが田畑の作物を荒らすとしても、それは一方的にシカが悪いというわけでもありません。ただ、田畑や山、人間の生活も守っていかなくてはなりません。その方法のひとつとして「狩猟」という選択肢があるということなのだと思います。もちろんそこには獲って食べる喜びもあり、それと矛盾することなく、命への真摯な気持ちも同時に存在すると思います。

イベント報告

キノコ定点調査

- ① 講師 横山了爾・宇那木 隆
- ② 日時 10月7日～11月6日
- ③ 参加者 12名（調査2回）

10、11月のキノコの発生は昨年と比較すると相対的に少ない。キノコの発生は、気温や湿度などの自然環境に大きく左右される。その中で、NO.3 地点（モミ林）にはモミ林に生える食用になるアカモミタケが比較的多く生えていた。又、ハンザキ研北側の No.5 の地点（雑木林）の周辺には大型で食用になるウラベニホテイシメジが多く生えている。同じ場所には、毒性の強いクサウラベニタケもあり見分けはほとんど付かない。このため、誤って食することが多くあり食中毒が絶えないようだ。

No.5 の地点周辺には春先、コナラの根にホンシメジ菌を 15 袋植え付けた。そのうち 3 分の 2 が有効菌となり増殖が見られた。

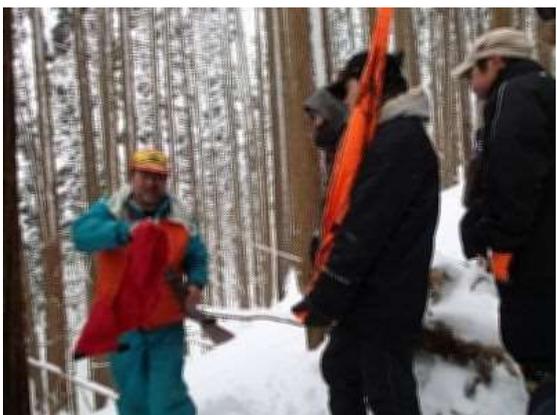
どの程度人間が自然をコントロールするのかとか、はたして人間に自然の管理ができるのかとか、問題はたくさんありますが、いろいろと考えるきっかけとして、興味をもたれた方は、環境省の HP から「狩猟」でぜひ検索してみてください。フォーラム広報 Facebook の  フォーラム広報 Facebook バナーから入ると、各地のフォーラムやセミナーの様子も見ていただけます。



くくりわなの設置



箱わなの説明



模擬銃を持って巻き狩り猟の体験



クサウラベニタケ



ウラベニホテイシメジ

事務局長 奥藤 修

野鳥調査（野鳥バンディングとウオッチング）

- ① 日時：10 月 27 日 9:00～14:30
- ② 講師：脇坂英弥夫妻
- ③ 天候：曇りのち晴れ
- ④ 場所：日本ハンザキ研究所周辺と県営生野ダム（銀山湖）左岸
- ⑤ 参加者：3 名

講師の脇坂英弥夫妻は、早朝からハンザキ研究所敷地に接して流れる市川の河川ステーション前にカスミ網を仕掛け、メボソムシクイ、ホオジロを捕獲した。バンディング後、銀山湖に移動しウオッチングを行った。

9:00 早朝仕掛けたハンザキ研西側、市川護岸のカスミ網を確認

9:45 捕獲なし

10:30 生野ダム（銀山湖）左岸に移動しウオッチング開始。渡り鳥の群れからはぐれたと思われる小鳥（アトリ）を発見。

13:15 黒川ダム湖右岸の渡り鳥が山越えする可能性の高い場所を探索後昼食

14:20 カスミ網を確認、メボソムシクイ、メジロを捕獲 14:30 解散

<野鳥確認リスト>

・銀山湖左岸（カケス、ホトトギス、ウグイス、アオゲラ、トビ、カワガラス、キクイタダキ、コガラ、シジュウガラ、各 1 羽）

（コゲラ、アトリ、ハシブトカラス、ヤマガラ、ホオジロ、各 2 羽）

（ヤマガラ、6 羽）（ヒヨドリ、15 羽）

（エナガ、20 羽）

・ハンザキ研周辺（メジロ、メボソムシクイ、各 1 羽捕獲）

（キセキレイ、1 羽）（セグロセキレイ 2 羽）

魚ヶ滝清掃イベント

- ① 場所 魚ヶ滝、滝壺とその周辺
- ② 日時 10 月 6 日 13:30～15:30
- ③ 天候 晴れ
- ④ 参加者 8 名

魚ヶ滝は、市川源流黒川溪谷の入口にある景勝地で、一帯は毎年多くの川遊び愛好家が訪れ賑わっている。夏になると子供や大人たちが、滝壺へのダイビングを楽しむ姿が終日見られる。又、ハンザキ研究所栃本所長がオオサンショウウオ調査を開始された起点ともいえる記念すべき場所でもある。滝壺は 7m 程度であったが近年は 5m 近くに砂が埋まり浅くなっている。底には空き缶やブリキ板などの危険なゴミがたくさんたまっているとの情報を得て今回の滝壺清掃を企画した。水中撮影を得意とし、オオサンショウウオの水中映像を数多く撮られている、会員、下村俊孝さんの協力得て実施をした。

酸素ボンベを背負って、滝壺底のゴミ回収を試みてもらったが、直前に起こった度重なるゲリラ豪雨により底浚えがきれいに出来あがっていた。しかし滝壺周辺には、グラスファイバー製の仮橋や、ブルーシート、鉄筋などの大型ゴミがあり、1t 車 1 台を上回るゴミを回収した。

事務局 長 奥藤 修



日本オオサンショウウオの会第 10 回京都大会

10 月 12 日・13 日

京都府立ゼミナールハウス、亀岡市文化資料館、京都水族館

総会の後、16 組の発表者による各地からの研究報告が行われ、充実した内容であった。

懇親会では海外からの参加者との交流もあり、親交を深めることが出来た。また、夜間観察会ではハイブリッド（交雑種）と見られる個体が多く見つかり、すべて検査するため捕獲された。京都水族館でバックヤードの見学をするなど有意義な大会であった。事務局 黒田真澄

編集後記

個人的な事ではありますが、未経験にもかかわらず客商売にチャレンジした農家民宿まるつねについて、前号、今号で少し書いてみました。裏を明かせば、記事を書いてくれる方が無いという話をしたところ、栃本理事長から現時点でのまるつねの総括をしてみればという意見をいただき、それではということになったという次第です。

そこで実際に書いてみた訳ですが、いざ取り組んでみると予想に反してページ数が足りません。決して筆の運びが良いわけではないですが、思っていることや伝えたいことが次から次へと出てくるもので、写真を入れるのももったいないなどと考える始末でした。

まるつねに関しては、いざ始めてみると予想もしないことの連続ではありますが、それはそれで楽しい経験として今日に至っています。幸いにもお客様に恵まれ、特に問題も無く今日を迎えておりますが、オオサンショウウオを見てもらうだけでなく、生野町や黒川の素晴らしさを知ってもらい、一過性ではないファンを地道に増やしたいと考えています。

日本ハンザキ研究所の見学に来られる際は、是非お泊まりでお越し下さい。ささやかではありますが会員限定のサービスを予定しておりますので、乞うご期待！

臨時編集長 黒田 哲郎



平成 27 年 3 月 31 日 発行

特定非営利活動法人

日本ハンザキ研究所

〒679-3341

兵庫県朝来市生野町黒川 292

TEL・FAX 079-679-2939

E-mail: info@hanzaki.net

H P: <http://www.hanzaki.net>

